



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	低線量放射線の健康影響に関する研究の現状と今後 -日本保健物理学会-
Alternative_Title	Present status and future of the studies on the health effects of low dose radiation: in Japan Health Physics Society
Author(s)	甲斐 倫明(大分県立看護科学大学) Kai, Michiaki(Oita Univ. of Nursing and Health Sciences)
Citation	第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集, p.164 53rd Annual Meeting on Radioisotope and Radiation Researches
Subject	セッション：パネル討論 1(2)
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/106854
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集」のデータであり、 発表内容に変更がある場合があります。



大分県立看護科学大学^{*1}

○甲斐 倫明^{*1}

(KAI, Michiaki)

1: 福島事故からの教訓: 福島原発事故が私たち放射線の専門家集団に与えた教訓は数多い。その中で事故以前からもつねに問題と感じてきたことが専門家と社会の関係と、専門家同士の知の共有です。この二つの問題を考えることで、これからの放射線影響・防護について考えてみます。専門家と社会の関係には、一人一人の専門家が社会と接する場合と学会のような専門家集団が社会にいかに関わるかの二つの問題があります。前者の代表例が福島事故後に起きた専門家不信です。社会的な混乱を招いた原因といわれています。事故後、さまざまな専門家が社会に情報発信を行った結果、社会にはある認識が生まれました。放射線の影響は不明な点があり、専門家によって見方が異なるというものです。これは、低線量のような不確かな知に対する専門家としての単なる意見の相違といった程度のものではありません。専門家の情報発信やコメントが被災した人々の行動や社会的な対応の場面で大きな影響を与えていたことを意味し、人々は誰を信じればよいのか迷い、あげくの果ては専門家に対する不信を招いたのです。この問題によってネット社会では専門家のレッテル貼りが行われ、知や判断の妥当性とは関係なく、放射線専門家は色眼鏡で見られるようになりました。ここで専門家といっても、放射線の研究者に限らず、さまざまな立場で活動する社会派の専門家も医療関係者も含まれますし、逆に放射線の専門家に限っても実はかなり幅広い専門性が存在する点は留意しなければならないでしょう。しかし、問題のポイントは、社会が専門的な知を必要とするときに、誰からあるいはどこから入手することができるのかということです。そのとき信頼関係といったものが大きな意味をもっているという教訓です。

2: コンセンサスが必要なのは科学的知見だけではない: 私たち専門家が陥り易いのは、科学によって得られた客観的な知はすべての人が等しく理解しなければならないという先入観です。しかし、現実には個人に与えられる科学的情報の質と量、あるいはその認知の特性から人が等しく理解するのは困難です。そのとき、科学的立場を強調するあまり、人によって異なった優先する価値観が生活の中で存在していることを忘れてしまいがちです。福島事故からの混乱は、科学的な知の限界と社会的価値の両面が複雑に絡んで起きていることを学びました。放射線防護には科学的な知や経験と社会的な価値が関係しています。

3: コンセンサス構築に向けて: 事故から4年の間に見えてきたのは放射線分野の特殊性であり、他分野とのアプローチの違いでした。また、同じ放射線分野の専門家といえども、放射線の測定、線量評価から出発し、生物、健康影響、リスク、防護までの放射線影響・防護全体を誰もが等しく理解し、俯瞰することができているわけではありません。ある専門家は放射線治療法を緻密に語ることはできても、線量評価や防護には明るくない。逆に線量や防護基準を語ることも、その背景やリスクまでを十分に説明することができないという放射線分野の中にある専門性の壁です。社会から見ると、専門家こそ客観的な知を等しく理解しているという先入観があり、現実には大きな隔たりがあったのです。放射線分野がもつべきコンセンサスを構築していくことが今こそ大切な時はないでしょう。

^{*1} Oita University of Nursing and Health Sciences